

【発表スライド】

<p>2019年11月28日（木）SDGs実践セミナーin黒部</p> <p><b>【事例紹介】</b> <b>地域内エコシステム</b> <b>@宇奈月</b></p> <p>（一社）でんき宇奈月 理事 富山県立大学 地域協働コーディネーター EPO中部 協働コーディネーター 堺 勇人</p> <p>①</p>	<p>◆地域内エコシステム</p> <p>目的と内容</p> <p>地域経済循環システムの構築を目指し、森林関係者への利益還元を目指す</p> <p>地域内エコシステムとは、集落や中町レベルで、小規模な再生可能エネルギーの活用または捨電開始によって、森林資源を地域内で持続的に確保させる仕組みづくりを目指す。山形県での活用が実用化されています。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 小規模とは、出力1,000kw未満を指しています。</li> <li>▶ FIT（固定価格買取制度）事業は想定していません。</li> <li>▶ 既加工段の燃料材（薪やチップ等）を利用します。</li> <li>▶ 未利用材やC・D材を活用します。</li> <li>▶ 山工へ利益を還元します。</li> <li>▶ 地域関係者も利益を受けます</li> </ul> <p><a href="http://wb-ecosys.jp/about.html">http://wb-ecosys.jp/about.html</a></p> <p>②</p>
<p>◆SDGsの同時解決につながる</p> <p>→地域が未来もずっと安心して暮らせるように 〔災害に困らない、仕事に困らない、差別がない、エネルギーに困らない etc...〕</p>  <p>★地域の木を使う理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候も使える資源（再生可能）</li> <li>森・自然を守る（木を使う）</li> <li>地球温暖化を防ぐ（CO2削減）</li> </ul> <p>★地域の人々でやる理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域に仕事をつくる</li> <li>不平等をなくす（多様性）</li> <li>住民のつながり</li> </ul> <p>③</p>	<p>一般社団法人 <b>でんき宇奈月</b></p> <p>→地域にあるエネルギー資源を活用して、地域を元気にしようとしている団体（小水力発電→電気バス etc）</p> <p>「でんき宇奈月」はこんなことします！</p>  <p>④</p>
<p>◆宇奈月の地域内エコシステム</p> <p>→地域の方々と協力して、地域の木材を薪にして地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す（実験）</p> <p>林野庁補助事業 「地域内エコシステム」構築事業</p>  <p>林野庁</p> <p>⑤</p>	<p>【具体的な流れ】</p>  <p>⑥</p>

③ グループワーク

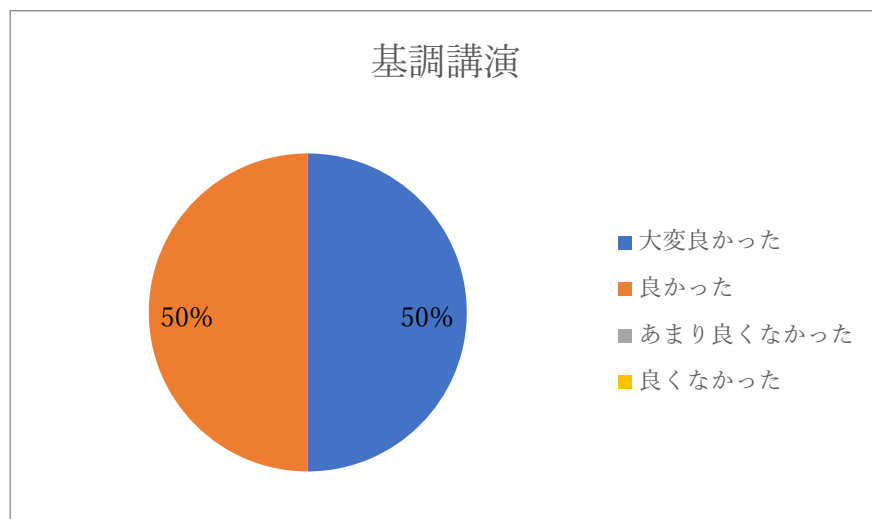
地元の NPO 法人「明日育」及び黒部市社会福祉協議会の小柴徳明氏と基調講演講師の長井氏がファシリテートし、同時解決事業を展開するのに必要なワークショップを行った。同時解決事業は多様なステークホルダーとの協働となるため、協働に必要な「自己」「他者」を知ることをテーマとして下記のワークを実施した。

- ▶ フラフープをみんなで支える：グループで人差し指で一定の高さで支えるワーどうしても上がってしまうことを体験し、協働の難しさを実感。
- ▶ 「自分は〇〇」：付箋に自分がどういうことが得意かを書いて貼り、互いにコミュニケーションを取り合った。限られた時間で多くの人と楽しくコミュニケーションができることが分かった。
- ▶ 違う者同士でのコミュニケーション：腕の組み方などから「判断」と「表現」の特性を4つの類型にして、それぞれに分かれ、異なる類型になった者同士でのコミュニケーションを体験。他者は必ずしも自分と同じ判断・表現をしていないことを実感。



## (ウ) 当日アンケート結果

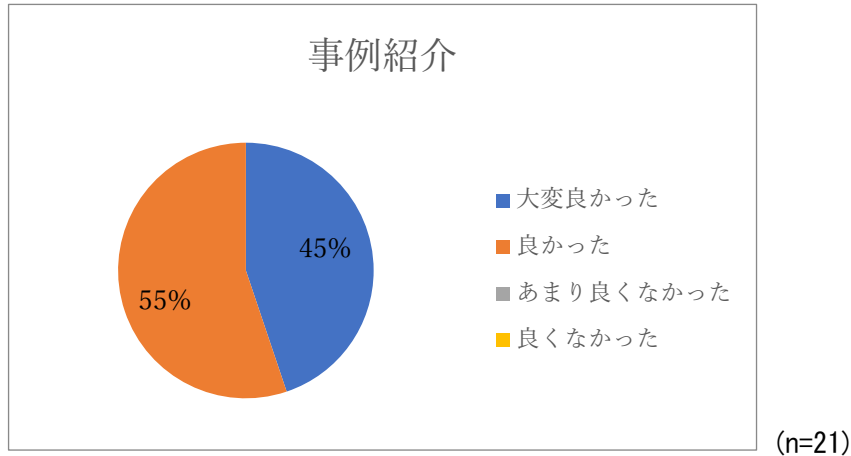
### ① 基調講演



(n=21)

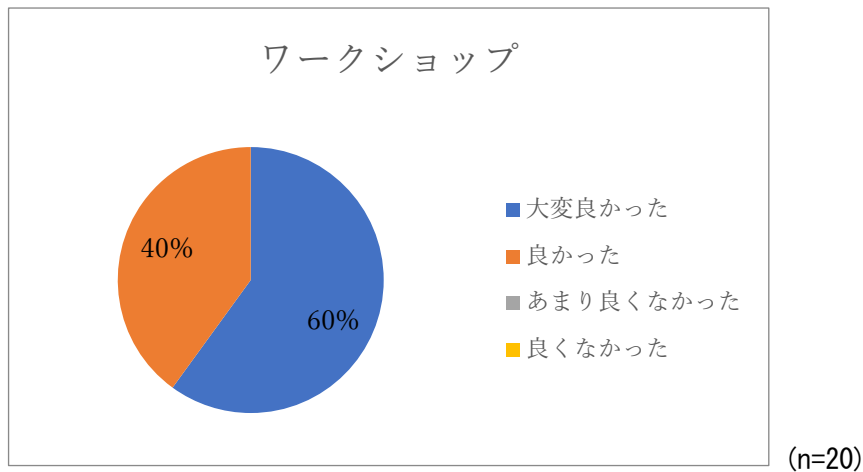
- SDGsの「同時解決」の事例と分かりやすく、学ぶことができた。
- たくさんメモを取りました。ホントに勉強になった！
- 意義が分かった
- 羽リサイクルははじめて聞きました。でも知ってよかったです。
- 映像があり視覚的にわかりやすかった
- 薪のイメージ暖かいやさしいイメージがしっかり宇奈月に発展しているところが良かった

## ② 事例紹介



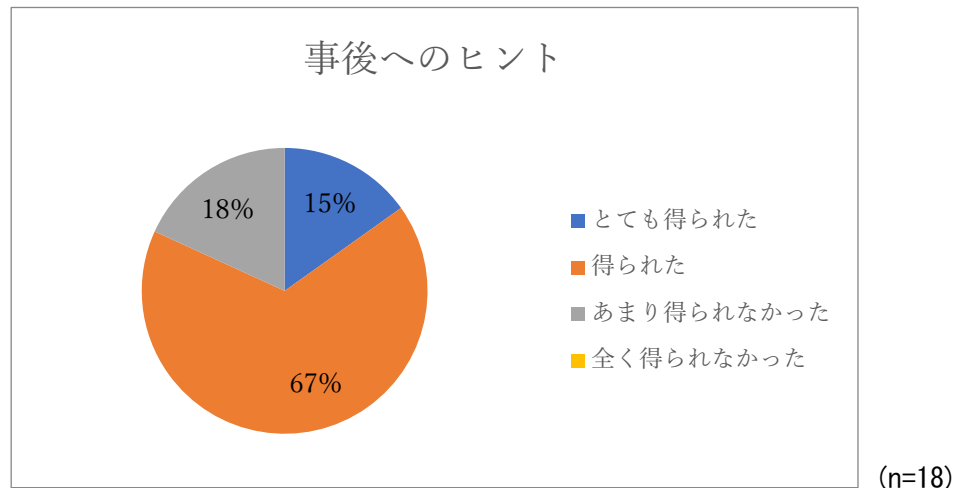
- 自立塾以外の人たちと会話できた
- 身近なところでこんなサスティブルな事業があるとは！！
- 地元の活動が良く分かった。ストーブがほしくなった。
- 本質資源のポテンシャルの高さを改めて感じた。

## ③ ワークショップ



- アイスブレイクの楽しさわかった。すばらしい。漫才を見ているようだった。
- コミュニケーションを取るためにはまず自分のことを語れるようにしなければいけないのが痛感。
- とにかくワクワクした！！コミュニケーションの本質がわかった！！！！
- 右脳と左脳で性格を診断するのが面白かった。
- 楽しくて面白かったです。
- 最近一番笑ったと思うくらい面白かった！！です。

#### ④ 事後へのヒント



- コミュニケーションをとることの重要性和改めて学ぶことができた。
- ちょっと違ったが、アイスブレイクの重要性を体験できてよかった。
- 伝える伝わるの違い

#### ⑤ 今後取り上げてほしいテーマ

- ゴールへのプロセス、人を巻き込む方法
- ステークホルダーとの連携と深めるための情報収集
- 各地域での進展取り組み。各個人へのメリット
- 具体的な事例を教えてください
- 現在の目標と達成への展望について
- 伝わるような行事を行う

#### ⑥ 全体を通じて

- とてもよかった。とくに自分事の大切について
- とても楽しかった

### (3) 事後の変化

セミナー終了後から2月初旬にかけて、参加者数名に電話や直接の聞き取り等により、事後の主体的な学びの発信、実践、パートナーシップの構築につながった例の確認を行った。その結果、下記の13例が確認できた。

#### 【SDGsの主体的な発信・学び、パートナーシップの構築につながった例】

##### 宇奈月自立塾、(一社) でんき宇奈月、旅館「喜泉」

- 今年度、林野庁の「地域内エコシステム」事業で、地域材を用いた薪ボイラースキームの実証実験に取り組む。その一環として黒部のセミナーに3者共に参加。参加後に、下記のような活動につながった。
- 薪製造担当の「宇奈月自立塾」は、自主性・主体性が増し、軽トラックを購入するなど、薪ビジネスを本格化し始めた。
- 旅館「喜泉」は、セミナーを経てこのスキームの社会的意義も実感し、薪ボイラー導入を決意。実証実験パートナーの森のエネルギー研究所、日本林業技術協会と具体的な導入について検討を始めている。
- 「でんき宇奈月」は本プロジェクトのとりまとめ役として、本件を林野庁の成果発表会(2月12日東京麹町)にて事例発表し、事後、参加者から同様のスキームを検討したいとの相談要請を受けた。

(「地域内エコシステム」の成果発表会資料)

##### 有限会社 西部トラベル

- 黒部セミナーに参加後、自社ホームページにてSDGs発信開始。
- セミナー参加団体を中心とした実践現場をめぐるツアー(ローカルSDGsツアー)を企画。3月19日に第1回目を実施予定。

(西部トラベルWebサイトより)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS		御旅行行程表					
SDGs セミナーオフ会ツアー							
コース名	とやまSDGsめぐり						
期 間	2020年3月19日(木) 日帰り	人 数	大人 20名 小人 0名 合計 20名				
月日	コース			会場			
3/19 (木)	集合・出発 富山駅北口 08:30	参観めと里山くらし 魚津・産染め屋 alya 09:15 ~ 10:15	SDGs企業取組視察 宇奈月 大高建設・うなジオ 11:00 ~ 12:00	地産地消メニューを味わったランチ懇談会 宇奈月産直館 12:10 ~ 13:00	朝 × 昼 ○ 夕 ×		
	高山市福切 大高建設現場視察 13:20 ~ 13:35	ジオパーク視察 生地・現地ガイドと清水めぐり 13:45 ~ 14:45	3.19OPEN☆生放送見学 FMとやまサテライトスタジオ 15:40 ~ 16:00	到着・解散 富山駅北口 16:05			
産染め屋 alya		大高建設		宇奈月 清水		FMとやま サテライトスタジオ	
<small>備 注</small> 主催・協賛 PECCとやま 企画・旅行 西部トラベル <small>参 考</small> アクセスは貸切バス1台のご案内です。 <small>参 考</small> 上記写真はイメージです。							

(ローカル SDGs ツアー行程表)

北酸株式会社

- 南砺セミナーを経て、社内でSDGs ワーキンググループを部署横断的に立ち上げ、南砺研修で学んだフレームワーク（SDGs ホイールをつかってゴールの相互作用を確認する手法）を導入。
- 富山県立大学と福祉分野を絡めた事業（同時解決事業）を検討中。

大高建設株式会社

- 地域でSDGs 企業として認知されつつあり、講演・研修の依頼を受けるようになった。
- 地域から受けたSDGs 研修案件を、黒部セミナーでつながりのできたNPO法人「明日育」に依頼。

黒部市社会福祉協議会

- 昨年度発表したSDGs を地域用に5つのゴールにまとめた「5goals くろべ」を実装し、普及展開中。
- 広報誌「社協だより」にて大高建設を取り上げ、SDGs を紹介した。

「黒部の福祉を良くする活動計画」の広報・PRや5GOALSの活動推進にご協力いただける方にはパンフレットや缶バッジなどの広報資材を無料で配布しております。また、団体や集まりなどでこの計画や活動の推進に関する説明や紹介をご希望の場合は、お気軽に黒部市社会福祉協議会までお問合せください！

**【お問合せ先】**  
 社会福祉法人  
 黒部市社会福祉協議会  
 総務課 経営戦略係  
 〒938-0022  
 黒部市金屋464-1  
 黒部市福祉センター内  
 TEL.(0765)54-1082  
 FAX.(0765)52-2797

A3折パンフレット

5goals名刺サイズカード

(黒部市社会福祉協議会 Web サイトより)



(大高建設を紹介する「福祉くろべ」1月号)

南砺市 (エコビレッジ推進課)

- 昨年のセミナーを経て今年度 SDGs 未来都市に選定。
- EPO 中部の「活動見える化プログラム」に協力 (次項「(4) EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析」を参照)。

株式会社 延楽

- 独自事業として2年前から行っている社会課題映画上映会「宇奈月温泉ソーシャルシネマトリップ」がセミナー参加者に知られ、集客の拡大につながった。
- PEC とやまの SNS でも情報発信サポート。



宇奈月ソーシャルシネマトリップ Web サイト (左)、PEC とやま Facebook での告知協力 (右)

クリア家具合同会社

- 自社ホームページにて研修会の内容を発信。



(クリア家具 Web サイトより)

個人参加の方

- 南砺と黒部両方のセミナーに参加後、PEC とやま主催の SDGs コーディネーター養成講座を受講・修了し、SDGs 促進推進役を主体的に担い始めている。

千代田オフセット株式会社

- 南砺セミナーに参加後、地元東京で開催されたビジネスフェアにて SDGs をテーマにした展示を実施。研修で得た知識を使い、普及啓発用のリーフレットを作成・配布した。



(ビジネスフェアの展示ブースの様子)



(様々な製品を SDGs アイコンで紹介)



(独自に作成・配布した SDGs 普及啓発小冊子)

とうざわ印刷工業株式会社

- 各参加者から仕事の依頼を複数件受ける（北酸、富山市、南砺市他）。

富山市（環境政策課）

- 昨年からのパートナーシップにより、次年度 PEC とやまとの協働事業を検討中。

北陸電力株式会社

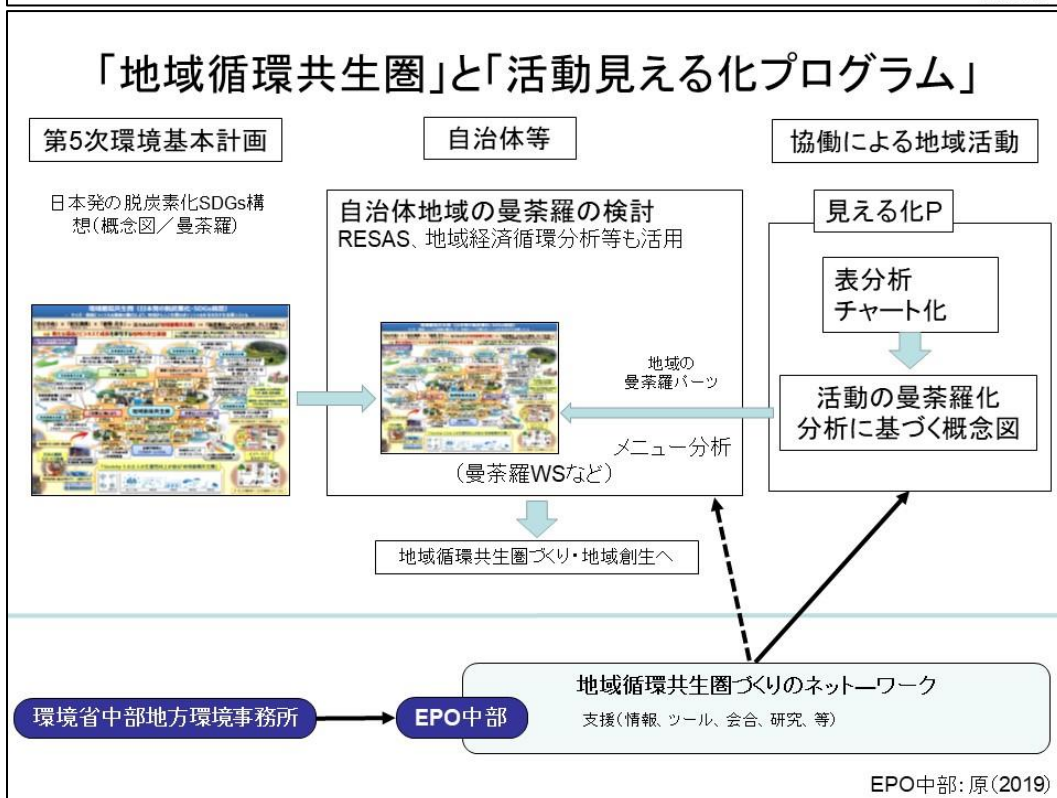
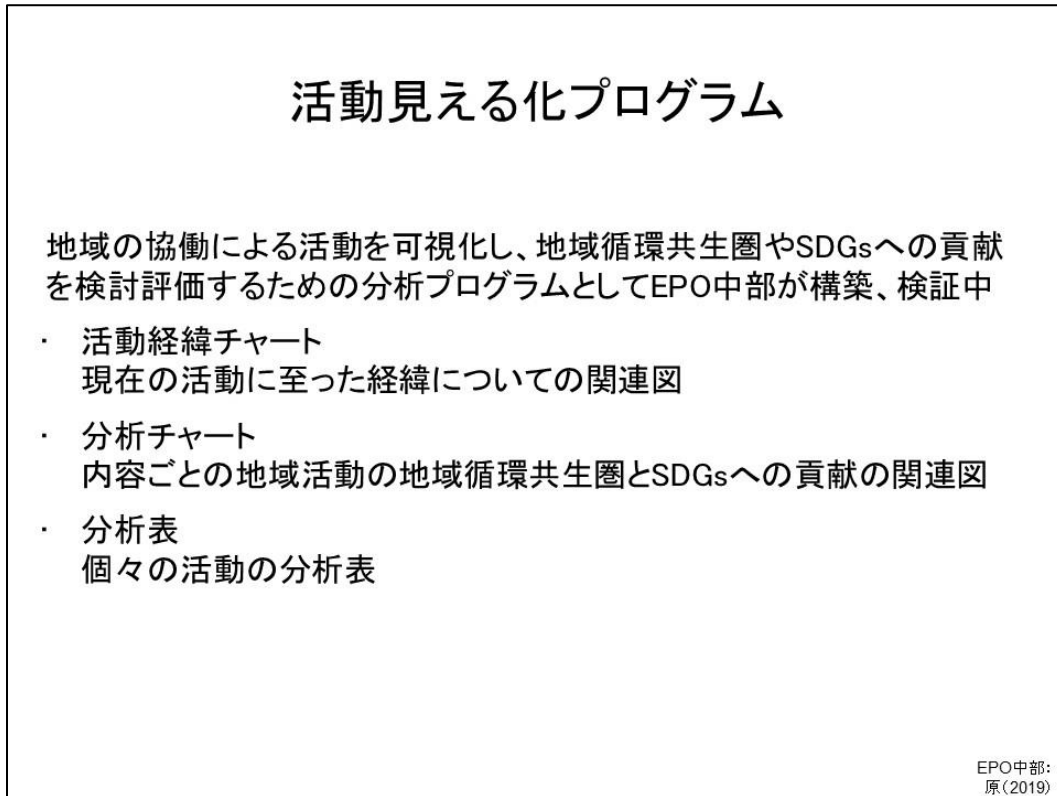
- 南砺セミナーに参加後、社内研修を PEC とやまに依頼（次年度実施）。



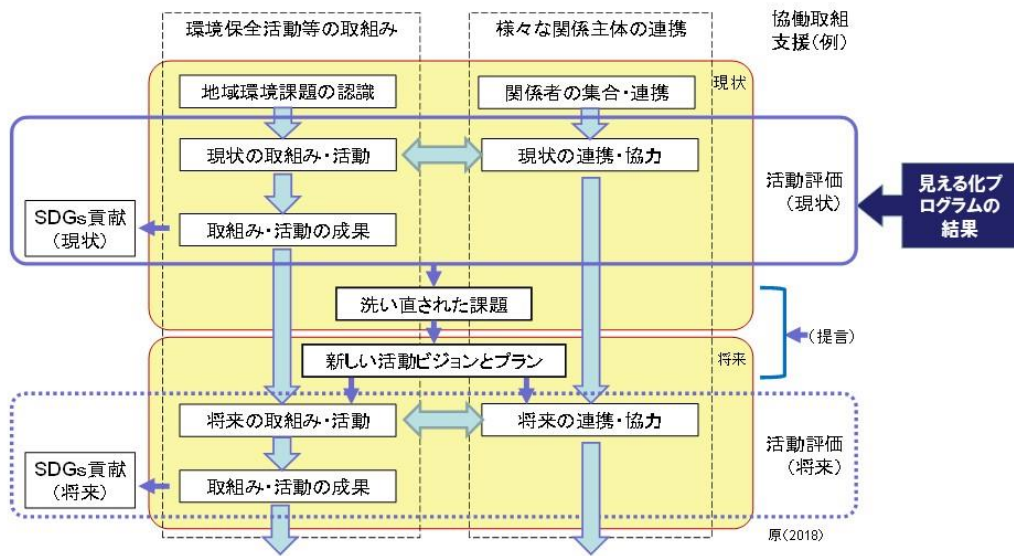
## (4) EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析

今回の南砺市、黒部市の2カ所での協働取組について、EPO 中部で構築中の「活動見える化プログラム」による分析を試みた。以下に本プログラムの概要と南砺市、黒部市の分析結果を示す。

### ア 活動見える化プログラムの概要



## 分析結果の位置づけ



## 経緯の考え方: 鍵となった出来事

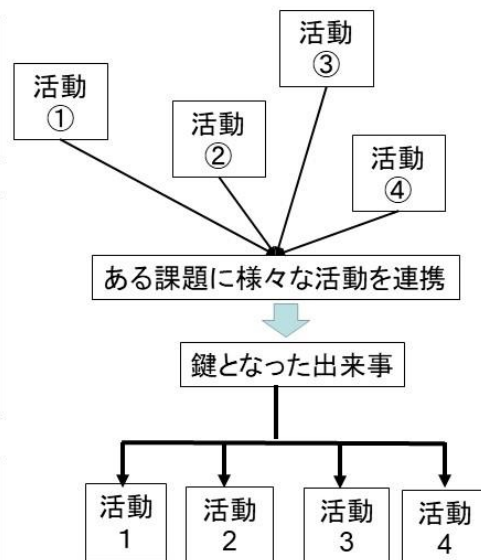
鍵となった出来事に至る経緯と、含まれる活動要素を「見える化」することで、活動内容のイメージを理解しやすく示す。

問題意識を具体化した活動、及び関連する様々な課題に対する取組み。

例)

- ・アブラガリの活用
- ・間伐材木ろそうそく制作に伴う林福連携
- ・エコビレッジ構想の策定

鍵となった出来事に至る経緯と、内容としての複数の活動を大きな流れとして「ものがたり」を見えやすくする。



EPO中部:原(2019)

# イ 分析結果

## ① 南砺市：南砺市エコビレッジプロジェクト（桜ヶ池モデル地区）

活動の経緯チャート

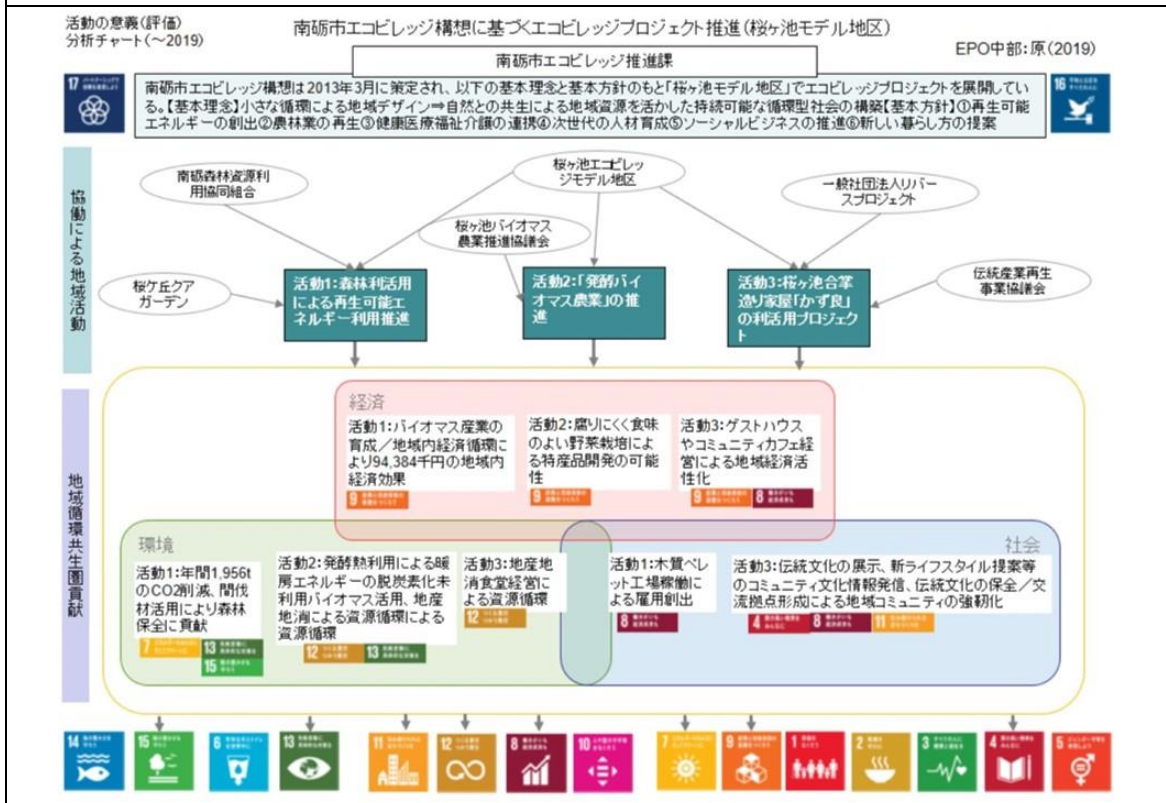
南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進(桜ヶ池モデル地区)

南砺市エコビレッジ推進課		
活動№	活動①	活動②
名称	南砺市エコビレッジ構想策定	モデル地区としての「桜ヶ池エコビレッジ宣言」
対象課題	「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考え、思いを共有するビジョン(構想)を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要	エコビレッジ構想を具体的に推進するためにモデル地区が必要。モデル地区の関係者の心構えと協力が重要。
活動内容	2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源(人・自然・経済・情報)の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。	エコビレッジ構想の中で、ポテンシャルの高い「桜ヶ池地区」をモデル対象地区として選定、関係者と合意形成を図る。
活動成果	南砺市の意図する「(便利)」「(思いやり)(自然、人、地域、未来)」による50年後の未来へと繋がる選択の指針を示すとともに「桜ヶ池地区」を重点モデル地区とした。	エコビレッジを実現する際の心構えとして、今後、孫子の代にわたる取り組みを進め、立ち戻れる拠り所として、「桜ヶ池エコビレッジ宣言」を志士会議の総意として定めた。
連携先	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン(構想)を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要と考え、その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らしていくための「エコビレッジ構想」の策定に専念した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源(人・自然・経済・情報)の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。	

カギとなった出来事:南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案

南砺市エコビレッジ推進課

南砺市エコビレッジ推進課			
活動№	活動1	活動2	活動3
名称	森林利用活用による再生可能エネルギー利用推進	発酵バイオマス農業の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、糞草、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働(桜ヶ池クアガーデン等)による資源循環の構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期の暖房を行い一年を通じた温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、連年の栽培を支援。発酵ガスのCO2をより作物が活性化され、腐りにくく、食味のよい作物が収穫。	ゲストハウスの運営、団体旅行やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営、麻織物、福光麻布、福野織、糞草などの資料展示・情報発信「かず良塾」、発酵食や韓国料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバーサイドプロジェクト推進
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ池クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバーサイドプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題			

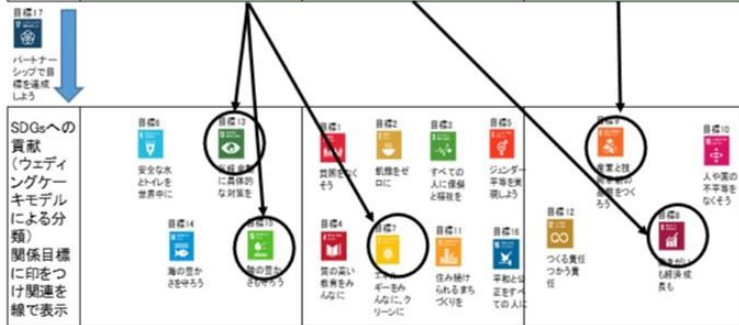


**活動1分析表  
森林利活用による  
再生可能エネルギー  
利用推進**

対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働(桜ヶ池クアガーデン等)による資源循環枠組みの構築
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ丘クアガーデン
現状の評価と課題	-



地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など)	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など)	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など)
	・年間1,956tのCO2削減 ・間伐材活用により森林保全に貢献	木質ペレット工場稼働による雇用創出	・バイオマス産業の育成 ・地域内経済循環により94,384千円の地域内経済効果



EPO中部: 原(2019)

**活動2分析表  
「発酵バイオマス  
農業」の推進**

対象課題	木の皮などのバイオマスの発酵活用
活動内容	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスが発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬の暖房を行い一年を通した温室栽培を可能とする。
活動成果	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を実証。発酵ガスのCO2により作物が活性化され、腐りにくく、食味のよい作物を収穫。
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会
現状の評価と課題	-



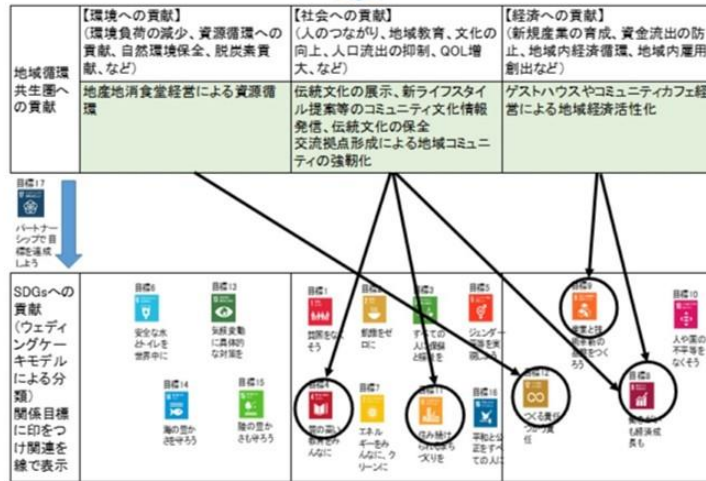
地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など)	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など)	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など)
	発酵熱利用による暖房エネルギーの脱炭素化 未利用バイオマス活用、地産地消による資源循環による資源循環		腐りにくく食味のよい野菜栽培による特産品開発の可能性



EPO中部: 原(2019)

活動3分析表  
桜ヶ池合掌造り家屋  
「かず良」の利活用プロジェクト

対象課題	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、糞草、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	ゲストハウスの運営、園芸体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営 城端織、福光麻布、福野織、糞草などの資料展示・情報発信 「かず良塾」、発酵食や和食調理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバーズビレッジなどライフスタイル提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバーズプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題	-



② 黒部市：地域内エコシステム@宇奈月

活動の経緯チャート

地域内エコシステム@宇奈月

一般社団法人でんき宇奈月

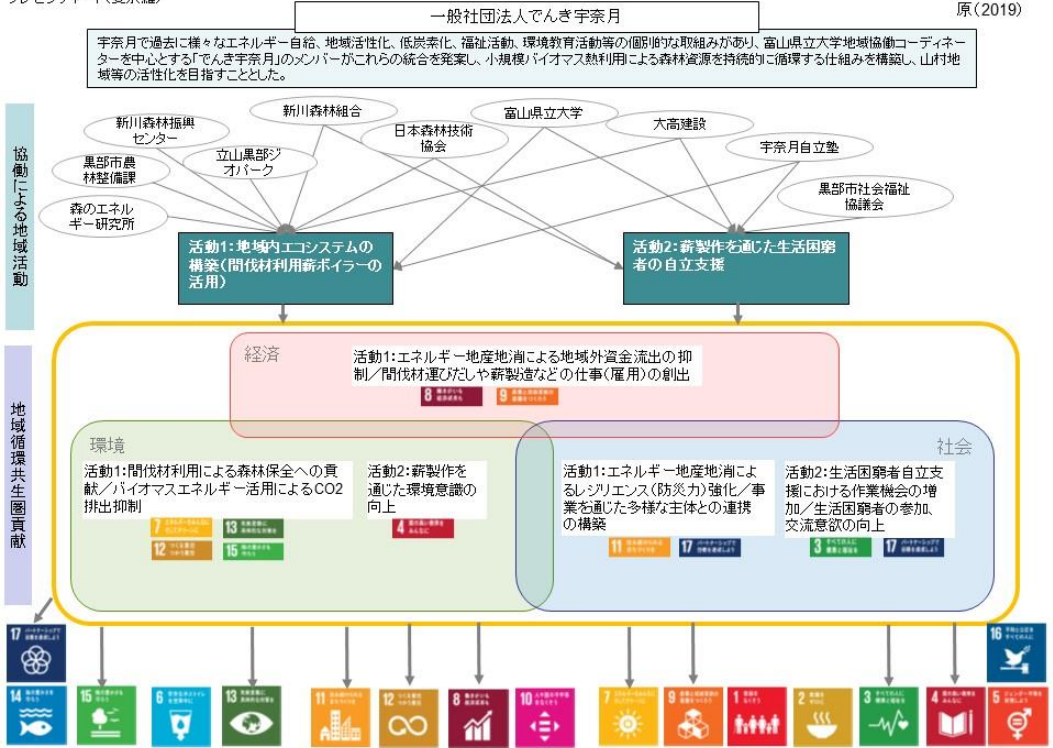
以前の活動	活動①	活動②	活動③	活動④
名称	秘湯に行くにも電気自動車で：電気自動車レンタル	温泉街での低速電気バスの運行	小水力発電の導入	温泉街パークアンドライド
対象課題	秘湯を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	温泉を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	CO2排出の抑制	道路の混雑の緩和／CO2排出の抑制
背景				
活動内容	電気自動車のレンタル事業	温泉街における低速電気バスの導入・運行事業	らせん水車による小水力発電の導入	
活動成果		観光シーズンに電気バスを運行し、温泉街の目玉の一つとなっている		
連携先				
経緯	一般社団法人でんき宇奈月は地域にあるエネルギー資源を活用して地域を元気にしようとしている団体として宇奈月温泉を拠点に活動中。			

鍵となった出来事：  
宇奈月で過去に様々なエネルギー自給、地域活性化、低炭素化、福祉活動、環境教育活動等の個別的な取組みがあり、富山県立大学地域協働コーディネーターを中心とする「でんき宇奈月」のメンバーがこれらの統合を策定し、小規模バイオマス熱利用による森林資源を持続的に循環する仕組みを構築し、山村地域等の活性化を目指すこととした。

一般社団法人でんき宇奈月

現在の活動	活動1	活動2
名称	地域内エコシステムの構築(間伐材利用薪ボイラーの活用)	薪製作を通じた生活困窮者の自立支援
対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない	・生活困窮者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	地域の方々々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材・林地残間伐材を森林組員の協力を得て運搬し、生活困窮者の協力を得た作業により玉切り薪割りをを行い、乾燥・運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をボイラーに用いる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に生活困窮者が協力いただく作業、薪ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。

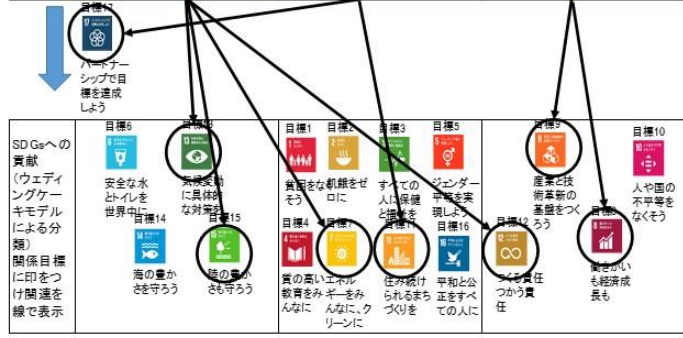
EPO中部: 原(2019)



活動1分析表  
地域内エコシステムの構築(間伐材利用薪ボイラーの活用)

対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない
活動内容	地域の方々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材・林地間伐材を森林組の協力を得て運搬し、障がい者の協力を得た作業により玉切り薪割りをを行い、乾燥、運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に障がい者が協力いただく作業、枚ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。
連携先	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク
現状の評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。

地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など) ・間伐材利用による森林保全への貢献 ・バイオマスエネルギー活用によるCO2排出抑制	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など) ・エネルギー地産地消によるレジリエンス(防災力)強化 ・事業を通じた多様な主体との連携の構築	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など) ・エネルギー地産地消による地域外資金流出の抑制 ・間伐材運びだしや薪製造などの仕事(雇用)の創出
-------------	--	---	--



活動2分析表  
薪製作を通じた生活困窮者の自立支援

対象課題	障がい者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をポイラーにくべる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
現状の評価と課題	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。



地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など)	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など)	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など)
	・薪製作を通じた環境意識の向上	・生活困窮者自立支援における作業機会の増加 ・生活困窮者の参加、交流意欲の向上	



SDGsへの貢献 (ウェディングケーキモデルによる分類) 関係目標に印をつけ関連を線で表示	目標6 安全な水とトイレを世界中に 目標14 海の豊かさを守ろう	目標13 気候変動に具体的な対策を 目標15 陸の豊かさを守ろう	目標1 貧困をなくそう 目標2 飢餓をゼロに 目標7 真の安いエネルギーをみんなに 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう	目標4 すべての人に健康と福祉を 目標11 住み続けられるまちづくりを 目標16 平和と公正をすべての人に	目標5 ジェンダー平等を実現しよう 目標8 働きがいも経済成長も 目標10 人や国の不平等をなくそう 目標12 つくる責任 つかう責任

EPO中部:  
原(2019)

# (5) 参考資料

## 【募集告知チラシ】

EPO中部/PECとやま presents

### 地域におけるSDGs実践セミナー2019

地球温暖化や貧困、紛争など、人類の生存・繁栄を脅かす世界的な複数課題を、全人類で協力し合って統合的に解決しようとする世界共通の行動目標SDGs(エスディージーズ：持続可能な開発目標)。  
地域においてはどのような実践が必要なのか、環境省が提示する「地域循環共生圏」と「同時解決事業」という2つのテーマを取り上げて、富山県内2カ所(南砺市、黒部市)にて事例と共に学びます。

**参加無料** **対象** SDGsの実践について学びたい北陸・信州地域の自治体、企業、団体、一般の方

～「地域循環共生圏」と「同時解決事業」をテーマに～

**2019 8/26 月曜日 13:30～16:30** **テーマ** 地域循環共生圏

講師: 南砺市クリエイタープラザ 桜クリエ 多目的ホール/カフェトリアン  
〒938-1655 富山県南砺市山形町1514番地8  
講師: 渡部厚志 氏  
公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)  
持続可能な消費と生産実践 全学的研究員/  
リサーチマネージャー  
所属: 南砺市 職方: 北陸株式会社

**2019 11/28 木曜日 13:30～16:30** **テーマ** 同時解決事業

講師: 立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ  
〒938-2302 富山県黒部市中山市民会館303  
講師: 長井一浩 氏  
一般社団法人Green Down Project 理事長/  
NPO法人明日自然環境政策 / 事務局長  
所属: NPO法人明日自然環境政策 / 事務局長  
所属: 大塚建設株式会社、一般社団法人てんま亭、宇野目直彦

【主催】環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) / 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)  
【お問い合わせ】Tel: 076-400-8305 メール: info@pectoyama.org

## Schedule

**2019 8/26 月曜日 13:30～16:30** **テーマ** 地域循環共生圏

場所: 南砺市クリエイタープラザ 桜クリエ 多目的ホール/カフェトリアン

- 13:30～13:40 オープニング(会場:多目的ホール)
- 13:40～14:40 **【50分】**「SDGsと北陸地域共生圏」【60分】 質疑応答
- 14:40～15:10 **【90分】**「南砺市エコビレッジ構想」【30分】 質疑応答
- 15:10～15:20 質疑応答
- 15:20～15:30 休憩・会場移動
- 15:30～16:20 **【10分】**「Green Down Project」会場:カフェトリアン【50分】 <ケーススタディ> 「富山ならではのポジションで何をする?? ～南砺市エコビレッジ構想を題材に～」
- 16:20～16:30 講師講演・クロージング
- 17:00～19:00 懇話会(会場:カフェトリアン) **【希望者のみ・参加費2,000円】**

**8/26 オプションツアー**  
10:00～12:00 現地見学会(バレット工場)  
**【希望者のみ・定員20名】**  
昼食は自己負担(会場に飲食施設あり)

**2019 11/28 木曜日 13:30～16:30** **テーマ** 同時解決事業

場所: 立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ

- 13:30～13:40 オープニング
- 13:40～14:40 **【50分】**【60分】 「グリーンタウンプロジェクトとSDGs」
- 14:40～14:50 質疑応答
- 14:50～15:10 **【30分】**【20分】 「地域内エコシステム(※半夜月)」
- 15:10～15:20 質疑応答
- 15:20～15:30 休憩
- 15:30～16:20 **【10分】** **【50分】** 「My同時解決事業 ～それぞれの事業プランを生み出してみよう～」
- 16:20～16:30 講師講演・クロージング
- 17:00～19:00 懇話会 **【希望者のみ・参加費2,000円】**

### 地域におけるSDGs実践セミナー2019 参加申込書

FAXまたは右のQRコードからお申し込みください。

FAX ▶ 076-461-3980 申込フォームURL ▶ <http://urx2.nu/0so5>

氏名(フリガナ) \_\_\_\_\_ 所属(フリガナ) \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_ メールアドレス(又は電話番号) \_\_\_\_\_

開催日	参加を希望するものに○をつけてください。
8月26日「地域循環共生圏」(南砺市) 申込URL: 8/21(水)	見学会(定員20名) ・ セミナー ・ 懇話会(参加費2,000円)
11月28日「同時解決事業」(黒部市) 申込URL: 11/28(木)	セミナー ・ 懇話会(参加費2,000円)

## 【報道関係】

webun 北日本新聞社

速報 [全国] 曇りにかけ猛烈な雨と気象庁

TOP ニュース スポーツ くらし・趣味 防災・安全 こども・NIE 特集・連載

富山県西部

### 持続可能な社会づくりに理解 南砺でSDGsセミナー

2019.08.26 16:25

環境省中部環境パートナーシップオフィスと環境市民プラットフォームとやまは26日、南砺市クリエイタープラザ桜クリエで、国…

記事全文を読む

(2019年8月26日 北日本新聞 Web ニュース)



# SDGs達成へどう行動

環境省・市民団体がセミナー



環境省中部環境パートナーシップオフィスと環境市民プラットフォームとよまは26日、南砺市アリエイタープラザ桜クリエで、国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)のセミナーを開いた。参加者はSDGsの意義や地域での実践方法について理解を深めた。

南砺市の担当者が、循環型社会構築を目指す同市のエコビレッジ構想について事例紹介した。

参加者はグループ討議を行い、SDGs達成へ各自が担う役割や行動について意見を交わした。セミナーに先立ち田中幹夫市長があいさつした。

次回セミナーは11月28日に黒部市で開く。

セミナーで講演する渡部さん

**南砺** 環境省中部環境パートナーシップオフィスと環境市民プラットフォームとよまは26日、南砺市アリエイタープラザ桜クリエで、国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)のセミナーを開いた。参加者はSDGsの意義や地域での実践方法について理解を深めた。

地球環境戦略研究機関(東京)の主任研究員・リサーチマネジャーの渡部厚志さんが「地域循環共生圏」をテーマに講演した。SDGsは途上国への支援だけで達成できる

目標ではなく、日本を含む世界の政府や市民が連携して取り組まなければならないとした。

南砺市の担当者が、循環型社会構築を目指す同市のエコビレッジ構想について事例紹介した。

参加者はグループ討議を行い、SDGs達成へ各自が担う役割や行動について意見を交わした。セミナーに先立ち田中幹夫市長があいさつした。

次回セミナーは11月28日に黒部市で開く。

セミナーで講演する渡部さん

(2019年8月27日 北日本新聞)

## 「間伐材での暖房実践」

宇奈月でセミナー 地元取り組み報告



地域でできるSDGs(持続可能な開発目標)の実践セミナーが二十八日、黒部市宇奈月温泉の立山黒部ジオパーク交流施設「わくわく広場うなジオ」であった。

地方からの主体的なSDGs普及促進のため、環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)と一般社団法人環境市民プラットフォームとよま(PPECとよま)が主催、NPO法人明日音が共催した。近隣の自治体、企業、団体、県立大学生ら約四十人が参加した。

**SDGs 最前線**

セミナーではダウンシャケットなどに使われる羽毛のリサイクル活動「グリー」

ンダウンプロジェクト」を進める一般社団法人「Green Down Project」の長井一浩理事長が活動内容を基調講演。間伐材などを使ったまきボイラーで会場のうなジオの暖房の一部をまかなっているなど、地元でのSDGsの取り組みの実践報告があった。

異業種間の新たな連携でSDGsにつながる事業をつくり出すため、参加者一人一人が自分の長所、短所を明らかにして、何ができるか、どうしたらよいかを考えるグループワークも実施した。

(松本芳孝)

グループワークでフラフープの輪を指で支え、下におろそうとする参加者。なぜか、上に持ち上がってしまう、連携の難しさを実感した=黒部市宇奈月温泉で

(2019年11月29日 北陸中日新聞)

## 9 関係主体との連携及び協働に関する業務

### (1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

#### ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

##### (ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4月22日	1. 業務実施計画等について ・業務計画書：業務内容、業務スケジュール、達成目標の確認 ・開催イベント・会議等の展開案 2. 同時解決事業4/24打合せについて ・事業計画（GEOCフォーマットで里山ウェルネスが作成）の確認 ・業務実施状況確認用フォーマットでの業務スケジュールの確認 ・打合せでの確認事項：第1回協議会に向けた確認事項 3. EPO/ESD運営会議について ・委員メンバーの確認→新規メンバー（加藤先生）の委嘱手続き ・運営会議要綱の修正 ・次第案と会議資料 ・スケジュール（座長打合せの設定等） 4. その他
第2回	5月9日	1. 業務実施計画等について ・業務スケジュール（前回修正）の確認 ・開催イベントの展開案 →ESDダイアログ（福井）等に関する報告 2. EPO/ESD運営会議について ・次第案と会議資料 ・スケジュール（座長打合せの設定等） 3. その他
第3回	6月6日	1. EPO/ESD運営会議について 2. ダイアログ・フォーラム等の企画案について （1）6/13ESDダイアログ福井の申込状況の報告と「ダイアログ」の進行案の確認 （2）8/7協働フォーラム金沢の調整状況等の報告 （3）11/23協働フォーラム飯山の企画案の確認 （4）ESDネットワーク地域フォーラム（ユース参加）の企画案・日程についての相談 （5）そのほか催事の日程についての相談・確認 3. 地域循環共生圏づくり研究会の開催について （1）全3回の開催日程についての相談 （2）研究会の内容（要綱・要件、研修内容、講師等）についての協議 4. その他 （1）インターフェース会議について （2）次回打合せ （3）四半期報告書の提出について （4）その他 ・業務項目「ネットワーク・ノウハウの整理」の報告書データの受け渡し
-	6月12日	・「地域循環共生圏」に関連するEPO中部の業務等を紹介・説明
第4回	7月11日	1. EPO/ESD運営会議の内容確認 2. ダイアログ・フォーラム等について （1）8/7協働フォーラム金沢 （2）8/8ESDダイアログ金沢 （3）10/12ESDネットワークフォーラム →開催日変更11/4（月・祝） （4）11/23協働フォーラム飯山の企画案の確認 （5）そのほか催事の日程についての相談・確認 3. 地域循環共生圏づくり研究会の開催について 4. 四半期報告書について 5. その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第5回	8月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 8/23 地域循環共生圏づくり研究会（第1回）の資料について</li> <li>2. ダイアログ・フォーラム等について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 8/29SDGs 検証ワークショップ</li> <li>(2) 11/4ESD ネットワークフォーラム</li> <li>(3) 11/16ESD ダイアログ飯田</li> <li>(4) 11/23 協働フォーラム飯山</li> <li>(5) そのほか催事について</li> </ol> </li> <li>3. その他</li> </ol>
第6回	9月3日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ダイアログ・フォーラム等について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 10/15 基金説明会</li> <li>(2) 11/4ESD ネットワークフォーラム</li> <li>(3) 11/16ESD ダイアログ飯田（8/28 飯田市との協議結果について）</li> <li>(4) 11/23 協働フォーラム飯山</li> <li>(5) 12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃）</li> <li>(6) そのほか催事について</li> </ol> </li> <li>2. 地域循環共生圏づくり研究会／協働コーディネーターの展開について</li> <li>3. 同時解決事業について</li> <li>4. 地域 ESD 拠点へのヒアリング結果について</li> <li>5. その他</li> </ol>
第7回	10月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務全体の進捗状況について</li> <li>2. ダイアログ・フォーラム等について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域循環共生圏ワーキング</li> <li>(2) その他イベントに関する報告・確認等</li> </ol> </li> <li>3. 地域循環共生圏づくり研究会の今後の展開について</li> <li>4. 活動見える化プログラムについて</li> <li>5. 同時解決事業について</li> <li>6. 地域循環共生圏関連ヒアリングの進め方について</li> <li>7. 第2 四半期報告書について</li> <li>8. その他</li> </ol>
第8回	11月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セミナー関係の報告・確認について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 11/16 ダイアログ飯田の開催報告</li> <li>(2) 11/22-23 地域循環共生圏づくり研究会（第2回）と協働フォーラムの進め方</li> <li>(3) 12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃）</li> <li>(4) 1/31 地域循環共生圏ワーキングのチラシ原稿案（タイトル検討）</li> </ol> </li> <li>2. 活動見える化プログラムのケーススタディ実施状況について</li> <li>3. 地域循環共生圏関連ヒアリングについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) PF事業の意見交換会の状況報告</li> <li>(2) その他ヒアリング事例の候補</li> </ol> </li> <li>4. 同時解決事業について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 11/1 連絡会の協議結果の確認</li> <li>(2) 11/19 事業形成会議の報告</li> </ol> </li> <li>5. 12/20-21 全国 ESD フォーラム出展ポスター原稿案について</li> <li>6. インターフェース会議の試行</li> <li>7. その他</li> </ol>
第9回	12月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同時解決事業について</li> <li>2. セミナー関係の報告・確認について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃）</li> <li>(2) 1/31 地域循環共生圏ワーキング ※協働コーディネーターの参加</li> <li>(3) 2/7 第3回地域循環共生圏づくり研究会</li> </ol> </li> <li>3. 活動見える化プログラムのケーススタディ実施状況について</li> <li>4. 作成した SDGs チェックリストの公開について</li> <li>5. 地域 ESD 拠点登録団体へのヒアリングについて</li> <li>6. 地域循環共生圏関連ヒアリングについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) PF事業のヒアリング結果報告</li> <li>(2) その他ヒアリング事例の実施予定</li> </ol> </li> <li>7. ウェブサイトのリニューアル方法について</li> <li>8. 「出展可能イベント」リスト公開に向けた作業と過去報告書（登壇者）タグ付け作業について</li> <li>9. 1/30 外部評価会議、EPO・ESD 運営会議について</li> <li>10. その他</li> </ol>

	実施日	主な打合せ協議事項
第10回	1月21日	1. 来年度の再委託について 2. EPO・ESD 運営会議の資料、座長打合せ（1/30 千頭先生、2/14 伊藤先生）について 3. イベント等について （1）1/31 地域循環共生圏セミナー：参加者、ワーキング内容など （2）2/7 第3回地域循環共生圏づくり研究会：出席者、千頭先生の参加、議題等 4. 協働パンフレットの原稿 5. 地域循環共生圏の事例ヒアリングについて 6. 1/30 外部評価会議について 7. 第3 四半期報告書の納品 8. その他
第11回	2月26日	1. 仕様書補足事項について 2. 次年度「追加業務」、協働コーディネーターからの連携（イベント）提案等の回答について 3. EPO・ESD 運営会議について 4. 地域循環共生圏の事例ヒアリング結果について 5. 今後の予定について 6. その他
第12回	3月12日	1. 年間報告書について 2. EPO 中部運営会議の委員の意見（記入票への回答）について

### (イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務について、毎月、所定の書式による報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

## イ 中部地方環境事務所が開催する会議への出席、企画作成支援、必要な資料の作成等

- 中部地方環境事務所が開催する会議（本業務の外部評価委員会を含む）について、事務所担当官の要望に応じて、出席、企画作成支援、必要な資料の作成等を行った。

実施日	実施内容
7/24	第16回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
10/3	第17回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1/9	第18回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1/30	外部評価委員会に出席（及び2019年度業務の説明用資料、自己評価シート、前年度課題対応状況資料等の作成）
3/12	第19回地球温暖化に関する中部カンファレンス 【開催中止】※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。


## ウ 記者発表対応の実施

### (ア) リリース資料の作成・投げ込み

- 11月4日開催・ESD ネットワーク地域フォーラムについては、記者発表資料の投げ込みを行うことになり、リリース資料を作成（作成はCSOラーニング制度\*で受け入れたインターン学生でフォーラムの司会も担当）し、10月2日に投げ込みを行った。

※ CSOラーニング制度：損保ジャパン日本興亜環境財団が主宰する、大学生・大学院生が環境問題に取り組むCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含する概念）で8カ月間のインターンシップを経験する制度で、2019年度はEPO中部／中部地方ESD活動支援センターがCSOとなり、学生1名を受け入れている。

## 【作成したリリース資料】



**ユースと社会人のためのSDGs/ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催  
(お知らせ)**

令和元年10月1日(火)  
環境省中部地方環境事務所  
環境対策課 課長：萩ノ脇 裕可  
主査：西田 清紀  
(電話) 052-955-2134  
(FAX) 052-951-8889

令和元年10月1日(火)  
環境省中部地方ESD活動支援センター  
(環境省EPO中部内)  
責任者：原 理史  
担当：富田 夏子  
          武田 莉奈  
(電話) 052-218-9073  
(FAX) 052-218-8606

環境省中部地方ESD活動支援センターでは、ユースと社会人のためのSDGs/ESD推進ネットワーク地域フォーラム「世代間交流によるSDGs貢献のための人づくり」を開催します。今年7月、SDGs未来都市に名古屋市、愛知県等が選定されSDGsへの注目が高まっています。

本フォーラムでは、企業と高校生がSDGs/ESDの活動の発表を行うほか、SDGsの活動が連携し、広く発信されるために何をすべきかについて、登壇する企業人、高校生、参加者が世代・立場を超えて一緒に考えるワークショップを実施します。

- ・2030年も元気な組織であるために～小さな会社に取り組むSDGs  
島原久資氏(株式会社マルワ代表取締役社長)
- ・カンガルー出勤で変わった社内環境  
寺田有希美氏(三承工業株式会社ダイバーシティ推進室室長  
女性活躍・働き方改革担当)

◇ 高校生による活動発表

- ・人力発電機の製作～若いエネルギーを電気エネルギーに～  
愛知県立刈谷工業高等学校 自動車部
- ・ボランティアから始まった環境保護活動  
名古屋経済大学高蔵高等学校 理科部
- ・命をつなぐ! 弥富の手乗り文鳥よ再び!  
愛知県立佐屋高等学校 文鳥プロジェクトチーム
- ・未利用資源を活用した6次産業化への取組  
愛知県立渥美農業高等学校 農業機械部

◇ グループワーク

- ・高校生によるESD活動の社会への発信連携を考える  
-高校生、企業、参加者混合グループによるワークショップ-

(4) 参加者:  
どなたでもご参加できます。以下のウェブサイトから申し込みください。  
[https://chubu\\_esdcenter.jp/hot\\_topics/chubuesdnetworkforum2019](https://chubu_esdcenter.jp/hot_topics/chubuesdnetworkforum2019)

※ 定員を超過した場合は、先着順とさせていただきます、落選者のみに連絡いたします。

(5) 取材:  
・ マスコミ関係者の方は、取材登録をお願いします。①お名前、②申込人数、③連絡先(電話番号、メール、所属先の組織名・部署名)を事前にメール、電話等で開催日前日まで送付してください。  
※ メールの場合は件名欄に「1104ESDフォーラム」と記載してください。

(6) 申込先、問合せ先:  
環境省中部地方ESD活動支援センター  
(環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)内)  
担当 富田(とみだ)、武田(たけだ)  
TEL: 052-218-9073  
FAX: 052-218-8606  
Email: office@chubuesdcenter.jp

## (イ) ローカルメディアへのチラシ送付

- 11月23日開催・協働フォーラム(飯山市で開催)の広報展開に際し、開催案内チラシを下記の地元メディア4社に送付した。
- その結果、開催日当日に北信濃新聞の記者が会場を訪れ、取材を行った。(しかし、記事にはならなかった。)

No.	名称	郵便番号	住所
1	iネット飯山	389-2253	長野県飯山市大字飯山1095-1
2	北信濃新聞社	389-2254	長野県飯山市南町24-1
3	信濃毎日新聞 飯山支局	389-2253	長野県飯山市飯山1114-10
4	北信ローカル	383-0025	長野県中野市三好町1-3-6

## エ プラットフォーム構築事業の採択団体の支援等

### (ア) 採択団体へのヒアリング

#### ① ヒアリング概要

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の採択団体(5団体)に対し、ヒアリングを次の通り実施した。

採択団体	実施日	ヒアリング方法
七尾街づくりセンター株式会社(石川県七尾市)	11月12日	視察中、意見交換会での意見を聴取
国立大学法人富山大学(富山県富山市)	11月13日	視察中、意見交換会での意見を聴取
スマート・テロワール協会(長野県北信エリア/小布施町)	11月24日	意見交換会の実施後に聴取
おわせSEAモデル協議会(三重県尾鷲市)	11月28日	意見交換会の実施後に聴取
長野県根羽村(矢作川流域/根羽村)	12月3日	意見交換会の後日に電話で聴取

## ② ヒアリング結果のとりまとめ

### 【団体の成果】

七尾街づくりセンター株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>七尾街づくりセンターは多彩なイベントを既に企画、開催等しているほか、鉦打地区の農事組合法人なたち、まちづくり共助団体のNプランニングなどはしっかりとしたポリシーで取組を展開してきている。</li> <li>11/22には、市内中島地区の住民が地域課題について考える「中島100人会議」が開催され、地元紙にも掲載された。</li> <li>本事業を、地域活性化に取り組む意義を地域住民に浸透させるきっかけとしても活用していきたいと考えている。</li> </ul>
国立大学法人富山大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会で2回のワークショップを開催しており、にぎやかにディスカッションを進める素地がつくられつつある。</li> <li>11/28-29の2日間、かつての賑わいを取り戻したいと考えている富山市のアーケード街の一角で、地域の課題・未来を公開の場で考える「サテライトキャンパス」を開設し、当地域に1ターンした単館映画主催者を講師にした講座等を実施する。</li> <li>ステークホルダーは積極的に参加しようとする姿勢、意識がみられ、関係者、市（行政）などから高く評価され、期待もされている。</li> </ul>
スマート・テロワール協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中で、個別に展開されてきた活動や取組が多々あったが、それらにつながりはなかった。本事業に採択されたことをきっかけに、環境、地域資源などのキーワードでつながりを持たせることができ、さらにそれらを具体化する取組に着手するきっかけにもなったといえる。地域の中の多様な事業の流れを本事業のキーワードのもとで具体化できたと考えている。</li> </ul>
おわせSEAモデル協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初（プラットフォーム構築前）までは、中部電力、尾鷲市の2者で協定を結び、地域活性化を目指した取組を展開していた。しかし、今回のプラットフォーム事業をきっかけに、中部電力、市に加えて商工会議所の3者が協定を結ぶことになった。3者それぞれの強みを活かしつつ、中部電力や商工会議所等の民間のネットワークを活用して、それぞれの持ち場で取組を進めつつ、連携・協力ができるようになった。</li> </ul>
長野県根羽村	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題の抽出、整理を行うことができた。</li> <li>先日の意見交換会などの様子、結果を見て、思った以上の成果を得られるのではと期待をしている。</li> <li>本事業をきっかけに、矢作川下流域の安城市へも改めて事業説明をしたことによって、源流である根羽村の取組そのものが安城市における環境保全という目標にもつながっていると市側が捉えていること、村の取組にも全面的に協力いただけることなどを改めて確認することができた。</li> </ul>

### 【『地域プラットフォーム』をつくるにあたっての阻害要因】

七尾街づくりセンター株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人に諦め感がある。</li> <li>七尾街づくりセンターによる企画力・実行力について、「街づくりセンターは多彩な企画を展開している」と評価されているが、本事業を「街づくりセンターが取り組むもの」として認識するステークホルダーがいた。その一方で、本事業をきっかけに、様々なステークホルダーが連携・協力していく必要があることに気付いたと述べるステークホルダーもいた。</li> </ul>
国立大学法人富山大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーが積極的に参画・発言等する一方で、ワークショップなどの議論の場では、私の強さが表出する発言も少なくないため、プラットフォームとしてのまとまりに欠け、ワークショップを運営する事務局は不安を抱く場面もある。</li> </ul>
スマート・テロワール協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有するビジョンの構築が難しい。これまではプロジェクトの中での即応的なビジョンを描くのみで良く、それぞれが自由に描いていたが、プラットフォームとしてステークホルダーそれぞれのビジョンをどのようにして包括していくことができるか、明確にはなっていない。色々工夫をしていく必要があると考えている。</li> <li>既に地域の中で色々なプロデュースが展開されているが、既存のそれらの取組は、スケール感等もまちまちであるため、プラットフォームを構築するために、既存の取組を活かしながら何をどのようにしていけば良いかがまだ見えない。</li> </ul>
おわせSEAモデル協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業がスタートしたばかりで、各ステークホルダーにも順次接触をしている段階であり、ステークホルダーとして確定している主体がまだない状況にある。そうした接触中のステークホルダーと、どこまで情報共有などを行っていくべきかがわからない。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に協定を結んでいる3者（中部電力、商工会議所、市）についても、それぞれに考え方があり、おわせSEAモデル事業に対する認識の差などもあり、その差をどのようにして埋めていくべきか、想いを一つにできるかわからない。しかし、今回の意見交換会のように外部の人が加わることも一つのきっかけになるのではと感じた。</li> </ul>
長野県根羽村	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、地域全体で地域課題に取り組むための体制、特に人的な体制を整備することが全くなかったため、それが大きな課題になっている。本事業に採択されたこの機を活かし、体制を整えていきたい。</li> <li>これからステークホルダーに関わる様々な事項を把握して、本事業の実行に向け、進め方の整理を行っていくところであり、その進め方の整理をどのように行っていくかがまだ見えず、課題といえる。</li> </ul>

### 【『地域プラットフォーム』をつくるにあたっての必要な支援】

七尾街づくりセンター株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーとして参画する人たちがどのような人たちであるべきかをまず考えた上で、本事業やプラットフォーム構築の意義、地域の将来像について共有し、ディスカッションを行う場を改めて設定する必要がある。</li> </ul>
国立大学法人富山大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なアイデアや資源、主体が既に地域に存在しているが、それらをつなげるコーディネーターが不在となっている。</li> </ul>
スマート・テロワール協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーそれぞれが「自分でやる」という意識を持っているが、その意識が強く、自分たちのやりたいことだけに偏りがちとなる。そのため「外部者の視点」がほしい。今回の意見交換会でも、外部の方の意見が独り善がりな方向性を正す役目も果たしてくれた。自分達の「小布施ファースト」の展開を大切にしているが、このファーストは小布施が良ければよいという意味ではなく、「ファースト・ペンギン」のファーストである。このファースト精神を大切にしていくためにも、「外部者の目」を入れるための支援を期待したい。</li> </ul>
おわせSEAモデル協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「潤滑油」が必要である。決して評論家にはならず、3者やステークホルダーの利害がぶつかっても、それを調整してくれるコーディネーターの必要性を感じている。</li> </ul>
長野県根羽村	<ul style="list-style-type: none"> <li>先日の意見交換会のような機会を提供いただけると助かる。また、外部の視点も重要と考えている。</li> <li>本事業の採択時・スタート時にはまだ事業のあり方・進め方を抽象的にしか捉えていなかったが、おおよそ理解ができてきた現在、改めて事業に採択されて良かったと感じている。しかし、まだ本事業について勉強不足の面もあり、その点についても引き続き、支援いただけるとありがたい。</li> </ul>

## (イ) 情報収集（その他関連組織等の情報収集、ヒアリング）

### ① 情報収集の方法

- 地域循環共生圏構築に発展可能性を有する組織についての情報収集、ヒアリングを下記の通り、実施した。

対象団体	実施日	ヒアリング方法
南砺市（富山県南砺市）	8月26日	担当者に面談して聴取
NPO法人泉京・垂井（岐阜県垂井町／揖斐川流域）	1月21日	
株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ（富山県上市町）	2月7日	

## ② ヒアリング結果のとりまとめ

No. 1	
対象	久保 剛志 氏 (南砺市市民協働部エコビレッジ推進課長)
実施日	2019年8月26日

### 【ヒアリング結果】

① 取組の概要	(1) 取組・活動・事業の概要	・ 木質バイオマスによるエネルギー自給率の向上 (2千tの能力に対し需要は1600t、400t 移出の可能性あり)
	(2) 取組事例の地域	・ 富山県南砺市 (桜ヶ池モデル地区)
	(3) 主な関係主体 / ステークホルダー等	・ (南砺市役所以外) 桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、伝統産業再生事業協議会、一般社団法人リバースプロジェクト、桜ヶ丘クアガーデン。
② 地域循環共生圏づくり事例としての「概要」(循環要素)	(1) 地域内に循環するもの・こと	・ 森林管理による建築材循環、林業振興と災害抑制 ・ 発酵熟農業による資源循環 (安全安心の農産物: ブランド化) の拡大 (10軒から) ・ 次世代の郷土の誇り教育による定住促進 (人材循環)
	(2) 対象となる主な地域資源	・ もともとある自然資本文化遺産に対するエコビレッジ構想、SDGs 未来都市が成功要因
	(3) 対象となる主な地域課題	・ 木質: 公共施設の需要が主、ペレットストーブの民間普及が課題 ・ 木材: 人件費の問題、事業者が少ない。補助金の投入には限界 ・ 農業: 手間と経費が増加。JA のローコストに対抗するためには、付加価値化のPRが必要、安心健康の増進による健康寿命を延ばすことに使われるといい。 ・ 人材: 家庭教育の価値転換が必要 (郷土の誇り、戻ってくる価値観の醸成)
	(4) 地域の自立促進のための取組	・ これまでの取組を踏まえ 2019年「SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指している ①心豊かな「結」と「土徳」のまち創造 ②多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造 ③南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造 ④文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
	(5) 経済性の確保 (企業、金融機関等の巻き込み)	・ 地域の課題解決と魅力の向上のための資金支援の不足の課題に対応するためコミュニティファンド・南砺幸せ未来基金を構築。 ・ 企業や市民の寄付金・遺贈金、クラウドファンディング、休眠預金等を活用して資金を調達し地域課題解決などの事業支援に充てる。
③ステークホルダーとの関係づくりの状況	・ 木材: 林業事業者、木彫関係者、バット製作関係者、等による資源利用協同組合 ・ 農業: 桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、(株)つなぐ南砺 ・ 人材: 今のところ弱い。親世代のネットワークが必要か。未来支援センターなどを活用か。	
④プラットフォーム構築の可能性		
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ (連携イベント、勉強会等に対するニーズ)	・ 地域経済循環分析 (10年前のもの) の更新と精密化 ・ 土徳文化醸成のための普及啓発支援	
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性 (応募の障壁となるもの)	・ 情報発信のために「実践地域」への登録をしたい。 ・ 啓発事業に使いたい (土徳文化)。調査ものには助成規模が足りない。	



<b>No. 2</b>	
対象	河合良太氏 (NPO 泉京・垂井理事、NPO 地域の未来・志援センター地域コーディネーター)
実施日	2020年1月21日

【ヒアリング結果】

①取組の概要	(1)取組・活動・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 揖斐川流域における流域フェアトレードの仕組みづくりに取り組んでいる。</li> <li>・ NPO 法人泉京・垂井は、流域における循環型社会の構築、「穏豊（おんぽう）」社会の実現を目指しており、地域が広域的につながりを持ちながら豊かになることを呼びかけている。</li> <li>・ 具体的には住民主体による持続可能な社会づくりとして、フェアトレードの促進、発信、地域資源を活かした小さな生業づくり、ESD、SDGs 活用の行政・企業の活動支援などを展開している。</li> </ul>
	(2)取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 揖斐川流域が対象地域となっている。</li> <li>・ 現時点での取組は岐阜県垂井町での展開が中心となっている。</li> </ul>
	(3)主な関係主体／ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェアトレードタウン推進委員会がある。</li> <li>・ 構成員は、商工会、垂井町の担当課、飲食店、地域住民（個人）などとなっている。</li> <li>・ NPO 法人泉京・垂井は事務局を担っている。</li> <li>・ 今後、できれば商工会が中心となった展開にできればと考えている。</li> <li>・ その他委員会には所属していないが、学校（高校）、社協、和菓子屋さんなど商店などとの連携もある。</li> </ul>
②地域循環共生圏づくり事例としての「概要」（循環要素）	(1)地域内に循環するもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で何を循環させるかの打ち出しは、検討課題となっている。</li> </ul>
	(2)対象となる主な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域資源は多彩にある。</li> </ul>
	(3)対象となる主な地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の解決したいこととして、垂井町には工場が立地しており、働く場があるため住民の意識に危機感がない。</li> <li>・ また、名古屋のベッドタウンになっているため、都市部に依存した地域ともいえる。</li> </ul>
	(4)地域の自立促進のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の自立をどのように実現していくかも課題となっている。</li> </ul>
	(5)経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域には地銀が2行ある。うち1行が設立したシンクタンクの研究員とつながりはあるが、事業への協力連携などは展開されていない。</li> <li>・ 企業との協働を目的に、NPO が地域の SDGs コンサルティングとしての展開ができないかと検討している。</li> </ul>
	(6)その他の特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域ガバナンス調査」として、移住者の多い旧春日村など一部エリアを対象に、移住者を寄せ付ける要因について調査する取組を展開している。2019年度にはそのプレ調査を実施した。</li> <li>・ 過去に起業塾を実施しており、その参加者を対象に融資の獲得方法や課題などを共有するコミュニティづくりも展開している。</li> <li>・ 関係イベント出展者（主に起業家）が集まって情報共有等のできる会合の設置にも取り組みはじめたところである。</li> </ul>
③ステークホルダーとの関係づくりの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間は志が同じであるため集まりやすいが、行政とのつながりが弱いといえる。</li> </ul>	
④プラットフォーム構築の可能性		
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流通の仕組みづくりに取り組むうえで、専門家などを呼んで勉強会を実施できればと考えている。その際、専門家の招聘、地域への参加呼びかけの際に環境省やEPOとの共催になると、信頼度が向上し、説明しやすくなる。</li> <li>・ 地域の間人は地域にのみ目を向けがちであるが、広域的な視点からの情報提供を環境省、EPO から得られることも期待したい。</li> </ul>	

⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も応募したいと考えている。（※2019年度PF事業にも応募したが採択はされなかった。）</li> <li>応募にあたっての課題としては、事業のシンボリックな事象がないこと、広範囲にわたる取組となっているため、どのような取組であるかについての整理がきれていない点があげられる。</li> </ul>
--------------------------------------	--

No. 3	
対象	茶木勝氏 (株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役)
実施日	2020年2月7日

【ヒアリング結果】

①取組の概要	(1)取組・活動・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県上市町で農作物の生産者とその加工品の製造者をつなぐ架け橋となり、地域資源の循環を目指す「上市アグリパーク構想」。</li> </ul>
	(2)取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県上市町エリア（拠点は町内の立山山麓・中山間地域）</li> </ul>
	(3)主な関係主体／ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ティー・ツリー・コミュニケーションズ以外の主な関係者は、農業者（一次産業経営者）、農産物の加工業者・製造業者、町役場、商工会、観光協会、森林組合、県薬用植物指導センターなどがあげられる。</li> </ul>
②地域循環共生圏づくり事例としての「概要」（循環要素）	(1)地域内に循環するもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>畜産農家が飼育する牛（A5ランクの牛肉）は町の中で消費されるため、地産地消につながっているほか、牛糞は農家の土づくりに役立てられている。牛の餌にはその農家が生産する藁が用いられている。同様に養鶏業も農家との間で資源循環が維持されている。</li> <li>そのほか、森林組合が行った森での下草刈りの植物・木材を活用してアロマオイルが生産されているほか、農家の土づくりに活用されている。</li> <li>町内には県の薬用植物指導センターがあり、その知識を活かした特産品づくりも可能である。</li> </ul>
	(2)対象となる主な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用される主な地域資源には、農産物（里芋、養鶏、畜産、森林）のほか、獣害対策で捕獲されるイノシシ肉、未利用木材などがあげられる。</li> <li>歴史文化資源も多彩であり、それら資源と農業とを組み合わせたエコツーリズムの展開も可能と考えている。</li> </ul>
	(3)対象となる主な地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決すべき課題として、まず過疎化、人口減少があげられる。また農産品加工業者等の事業者が現時点では町内に確保できているが、後継者不足のため事業継承が難しくなっている。</li> <li>そのほか、空家問題、休耕地の増加なども地域課題としてあげられる。</li> </ul>
	(4)地域の自立促進のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業と加工業者の連携展開、エコツーリズムなどの取組があげられる。</li> <li>エコツーリズムでは地域のガイド養成など人材育成が必要とされている。古民家を活用して地域の農産物を食べてもらう店づくりができないかと検討されている。</li> <li>広報活動や景観づくりなどの取組と共に、立山山麓に立地する特性を活かした地域の付加価値づくりにも今後取り組んでいく必要があると考えている。</li> </ul>
	(5)経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産品等の販売で、内部：地産地消、外部：観光・ネット販売等の両方面への展開が必要と考えている。</li> <li>金融機関については、既に地銀等との協力・連携の取組（生産したお茶商品の窓口景品としての取り扱いなど）があり、事業への巻き込みのためのハードルは低いと考えている。</li> </ul>
	(6)その他の特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>アグリパーク構想というよりも、薬膳文化、健康のまちづくりをテーマとした方が全町的な取組になりやすいと考えている。</li> </ul>
③ステークホルダーとの関係づくりの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に農産品を活用した商品開発など、様々な事業、活動が展開されており、ステークホルダーとの連携・協力関係は構築されている。</li> </ul>	
④プラットフォーム構築の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム構築も問題ないと考えているが、実際に改めて構築するとなった際には、必要性を説明することが難しい。</li> <li>特にSDGsについて認識してもらい、なぜSDGsに取り組む必要があるかについて学んでもらうステップが必要となる。</li> </ul>	

⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs についての啓発（ワークショップ実施等）では、EPO のツールやプログラムを活用したい。</li> <li>他の関連分野の事例や先進的な事例などを紹介してほしい。</li> </ul>
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>応募したいと考えており、取組内容の整理等においては EPO に相談したい。</li> </ul>

## (ウ) 関連する会議への出席

- 環境省が主催する会議等に参加し、プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング結果の発表、課題の抽出などを行った。

開催日	名称	次第項目
7月30日・31日	地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業キックオフ	・プラットフォーム事業採択 35 団体の地域課題・現状、今後の取組等の発表
12月19日	地域循環共生圏 PF 事業支援取りまとめ会合	1. 地域循環共生圏プラットフォームの現状共有 -有識者会合やプラットフォームあり方検討 WG の内容について 2. 情報交換会等におけるヒアリング結果の共有 3. 意見交換（下記の論点を想定） -35 団体の進捗状況について傾向分析（促進要因や課題等） -地域循環共生圏づくりのプロセスに応じた EPO の支援可能性 -地域循環共生圏プラットフォーム事業へのフィードバック
3月9日・10日	【ウェブ会議】 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業情報交換会	（※新型コロナウイルス感染拡大防止のため会合形式からウェブ会議形式に変更された。） ・各活動団体からの活動報告の発表、情報交換等

## (2) 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等は次の通りであり、いずれについても出席した。

### 【関連会議】

開催日	会議	参加状況	備考
4月26日	EPO 統括会議	出席	
5月15日	EPO 統括会議	出席	
5月16日	第1回 ESD 活動支援センター(全国・地方)連絡会	出席	
6月21日	第1回同時解決事業形成会議	出席	
6月25日～27日	第1回全国 EPO 連絡会	2・3日目に出席	1日目は ESD 企画運営会議開催のため欠席。
7月30日・31日	地域循環共生圏プラットフォーム事業キックオフ	出席	
7月31日	地域循環共生圏全国ネットワーク構築検討業務 第1回ブロック会議研究会	出席	
7月31日	Green Gift 次期プログラムの説明会	出席	
8月1日	地球環境基金 EPO 連絡会	出席	
10月16日	ESD 推進ネットワークの成果の取りまとめに関する意見交換会	出席	
	EPO 統括会議	出席	
10月17日	第2回 ESD 活動支援センター(全国・地方)連絡会議	出席	

開催日	会議	参加状況	備考
11月19日	第2回 同時解決事業事業形成会議	出席	
12月19日	共生圏 PF 事業支援の取りまとめ会合	出席	
12月20日	EPO 統括会議	出席	
1月15日	第3回 ESD 活動支援センター(全国・地方)連絡会議	出席	
1月16日	第2回 EPO 連絡会議	出席	
2月23日	同時解決事業・全国ギャザリング	出席	
3月9日 ・10日	地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 情報交換会	参加	新型コロナウイルス感染拡大防止のため会合形式からウェブ会議形式に変更
3月11日	地域循環共生圏全国ネットワーク構築検討業務 第2回 ブロック会議研究会	参加	

※ 同時解決事業関連の会議、ESD 業務関連会議、地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業関連の会合等については各該当章にも記載。

